

福井県とスポーツツーリズム

Abstract

The purpose of our research is to consider issues of tourism in Fukui prefecture from the perspective of sports tourism. We conducted some research and made some observations. First, we reviewed previous research. From this research, we found that sports tourism has five features such as attraction, resort (training camps), activities, tours, and events. Second, we interviewed Professor Munehiko Harada of Osaka University of Health and Sport Sciences. Third, we picked up examples for each of the five features. Our examples are Shimanami Kaido in Onomichi city, Hiroshima and Imabari city, Ehime, Middle Yoshino river in Miyoshi city, Tokushima and Otoyō town, Kochi and Wakura onsen in Nanao city, Nanao Ishikawa. Fourth, we analyzed these examples using data. Fifth, we compared that data with data from Fukui prefecture. Finally, we considered issues of tourism in Fukui prefecture from the perspective of sports tourism. These results revealed three issues such as Insufficient equipment, Utilization of ICT and Distance from accommodation and sports facilities.

1 はじめに

(1) 動機

現在、日本では少子高齢化が問題になっており、福井県でも人口減少が進んでいる。そこで2024年3月、北陸新幹線金沢・敦賀間が開業することに目をつけた。その影響で福井県の観光客が大幅に増加する見込みがあり、福井県の魅力を他県に発信するチャンスであると考えた。しかし、人口増加による地方創生はハードルが高いため、代わりに交流人口の増加による地方創生を目指す考え方が主流になってきている。交流人口とは、その地域に訪れる人々のことで、その目的としては、通勤・通学、スポーツ、観光など、特に内容を問わないのが一般的である。私達は、それを活かし福井県の活性化に繋がりたいと考え、研究を行った。

(2) 問い

私達が立てた問いは「スポーツツーリズムの観点から考える福井県の観光における課題とは」である。

(3) 目的

目的は、スポーツと観光のコラボレーションによる福井県の盛り上げである。現在、福井県における課題は少子高齢化による地方の過疎化である。それに対して、各地方自治体は交流人口の増加と地域活性化を目標に様々な取り組みを行っている。私達の目標は、スポーツと県内産業（観光業）をコラボさせ、交流人口を増やすことである。

2 調査・検証

(1) 先行研究・論文調査

先行研究では論文を用いた。ここでは2つのことがわかった。

1つ目に、スポーツツーリズムが交流人口の増加や、地域活性化に大いに影響することが分かった。さらにここでは、スポーツツーリズムの定義を見つけた。それは「能動的か受動的かを問わない、偶発的または計画的で、かつ非商業的ないしビジネス/商業的な理由において、必然的に自宅や仕事の場所から離れて旅行することを要する全てのスポーツ活動への参加形態」というものだ。つまり、ツーリズム（余暇、ビジネス等の活動）に全てのスポーツ活動への参加を伴うものである。

2つ目に、スポーツツーリズムには以下の5つの領域があることが分かった。

- ・アトラクション→施設
- ・リゾート→施設の集合体
- ・アドベンチャー→アウトドア、レクリエーション
- ・ツアー→スポーツ参加ツアー、観戦ツアー

・イベント→メガスポーツイベント、大会

この中からリゾート、アドベンチャー、イベントの領域に注目して調査していくことになった。アトラクション、ツアーの領域では、当てはまる福井県内の観光資源が乏しかったため、除外する。

(2)インタビュー調査

先行研究 論文調査で補えないスポーツツーリズムについての知識を補填するためインタビュー調査を行った。

大阪体育大学の原田 宗彦先生にたいして(zoom)で質問会を開かせて頂いた。

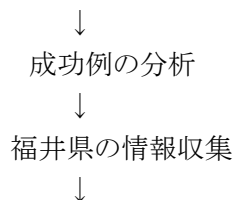
そこでは、

- ・自治体や企業との関係が大切
- ・スポーツとまちづくり、観光は親和性が高いということがわかった。

(3)検証方法決定

先行研究・論文調査、インタビュー調査から得た情報、知識から検証方法決定を以下の手順で行った。

スポーツツーリズムの領域ごとに成功例をピックアップ



福井県の課題について考察

(4)実例(県外事例)調査

ここでは、先行研究・論文調査で注目したリゾート、アドベンチャー、イベントの3つの領域をピックアップした。

- ・しまなみ海道(アドベンチャー)
- ・吉野川中流域(イベント)
- ・和倉温泉(リゾート)

・しまなみ海道

(広島県尾道市 愛媛県今治市) 2006年にしまなみ海道全線開通したことでレンタサイクル利用者が増加傾向にあり、それに加えて自治体同士(広島県尾道市 愛媛県今治市)の協力体制による共同レンタサイクル事業を始めた。

・吉野川中流域

(徳島県三好市 高知県大豊市)

ラフティング世界選手権2017が行われた。これにより「スポーツ×観光×ICT」でのビッグデータ収集により、観光施策立案や大会施設は多くのエリアで、選手・観戦者関係なく解放した。閉会式後の阿波踊り体験などの住民国際意識の向上などの効果がみられた。

・和倉温泉(石川県七尾市)

1991年で宿泊者数が164万4000人だったのが2009年には87万5000人まで半減してしまった。その状況の打開のため、2010年に和倉温泉観光協会、旅館協同組合、七尾市が和倉温泉多目的グラウンドを建設した。これにより、グラウンド利用者数が2010年は6624人、2011年は52206人、2012年は120000人となり、それに伴い宿泊数も増加した。

3 考察

これらのことから、福井県における課題の考察をしていく。

課題1 設備の不足

1つ目の課題として、設備の不足が挙げられる。しまなみ海道のデータを見ると、しまなみ海道が開通した1999年、レンタサイクルは2つの自治体で別々に行われており、広島県側の保有は280台、愛媛県側の保有は356台で、合計636台となっている。データをもとに、レンタサイクル年間貸し出し台数(図1)、サイクリングロード利用者数の推移(図2)を見るとレンタサイクル保有台数の増加に伴い、レンタサイクル貸し出し数、サイクリングロード利用者数も増えていることがわかる。よって、設備の整備はスポーツツーリズムにおいて大切なことがわかる。福井県のデータを見てみると、福井県嶺北地域では、レンタサイクルは53箇所で行われ、429台を保有しているが、そのうちスポーツタイプは19台しか用意されていないことがわかる。このデータから福井県の明らかな設備の不足が明らかになると思われる。設備の導入について、スポーツバイクの例から見ると、スポーツバイクの導入には1台につき8~15万円と大きなコストがかかる。それに加え、メンテナンスコストを加味すると、非常に莫大なコストがかかり、一度での導入は不可能だと考えられる。計画的に、かつ段階的に導入していく必要があると考えられる。

しまなみ海道レンタサイクル貸出台数

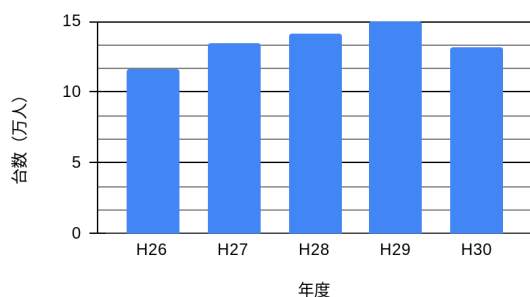


図1

しまなみ海道レンタサイクル

年間貸出台数の推移

しまなみ海道サイクリングロード利用者数

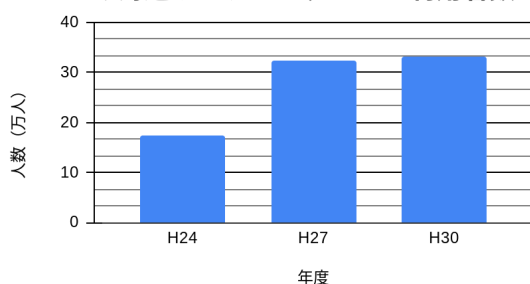


図2し

まなみ海道サイクリングロード

年間利用者数の推移

課題2 ICTの活用

2つ目の課題として、ICTの活用が挙げられる。吉野川の例で挙げられた通り、スポーツイベント時に得られたデータは観光施策に大きく役に立つ。データを観光に活用することで、観光客により快適な環境を提供することができ、リピーター増加にもつながると考えた。福井県では、2018年に福井国体が行われたが、観戦情報に特化したアプリが公開され、観光の分野にはそこまでフォーカスされていなかった。次の機会には観光データの収集のための仕組みを追加するべきだと考えた。

課題3 体育施設と宿泊施設の距離感

3つ目の課題として、体育施設と宿泊施設の距離感が挙げられる。スポーツ合宿には、サービス、競技環境、アクセスの3つが主に利用者に求められる。和倉温泉地区では、温泉という地域の強みにより、最高のサービスを展開、また国際サッカー連盟公認の人工芝を用いた競技環境を用意した上、宿泊施設と体育施設の距離を近くし、アクセスを良くし、最高の合宿環境を確保している。福井県にも素晴らしい競技環境がある体育施設や、芦原温泉を代表としたサービスの良い宿泊施設があるが、それらのアクセス面については課

題が残る。今すぐの施設移転は不可能だが、今後の整備計画に取り入れるべきではないかと考えた。



図3 和倉温泉地区地図

赤で囲まれた宿泊施設エリアから大規模体育施設(和倉温泉運動公園)までの距離が2km圏内(徒歩圏内)であり、アクセスの良さが分かる。

4 まとめ・考察

スポーツツーリズムの観点から考える福井県の課題として、以下の3つが挙げられる。

(1)設備の不足

設備の整備には多くのコストがかかる。しかし、設備を充実させ、数年で利用者数を増加させた事例がある。少しずつでも設備の不足解消に向け、アクションを起こすべきである。

(2)体育施設と宿泊施設の距離感

それぞれが強みを持っていても、距離感が悪いと相乗効果は生まれないので観光に必要な不可欠な「宿泊」との距離感次第で、状況は大きく変わると考えられる。

(3)ICTの活用

福井県は、スポーツイベント開催によって得たインフラやデータを活用していくべきである。福井しあわせ元気国体・大会2018の開催実績があるのでそれを将来のスポーツイベント時に役立てることができるはずである。

5 参考文献

小松雅樹ほか(2022)「観光経営学視点からみた国内スポーツツーリズム研究動向に関する考察」

二宮浩彰(2009)「日本におけるスポーツ・ツーリズムの諸相:スポーツ・ツーリズム動的モデルの構築」

望月 徹(2019)「しまなみ海道におけるサイクルツーリズム振興の一考察 ―その広域連携の構造と機能について―」

山口志郎ほか(2018)中山間地域における持続可能なスポーツツーリズムの発展 ―吉野川のアウトドアスポーツを事例に―

温泉街をスポーツ合宿の聖地に。“掛け替えのない空間づくり”に邁進する男の物語

【日本サッカー・マイノリティレポート】
サッカーダイジェストWEB

スポーツツーリズム推進の方向性 ～スポーツツーリズムを推進する意義とインバウンド拡大に向けたビジョンの確認～

国土交通省 スポーツツーリズム推進連絡会議